

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西が岡小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	59人	算数	59人	理科	59人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	64人	算数	64人	理科	64人
------	----	-----	----	-----	----	-----

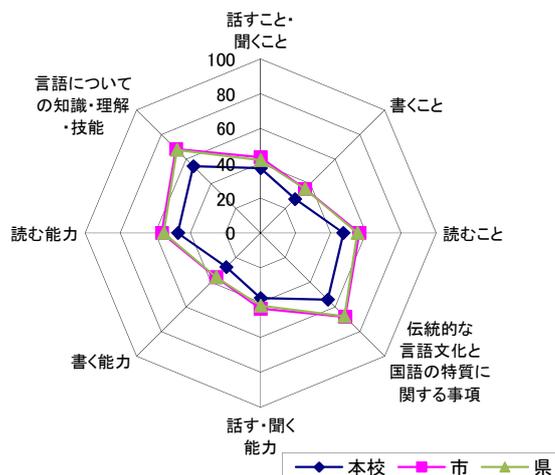
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	37.3	43.5	41.8
	書くこと	27.7	35.9	35.8
	読むこと	47.2	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	54.2	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	37.3	43.5	41.8
	書く能力	27.7	35.9	35.8
	読む能力	47.2	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	54.2	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

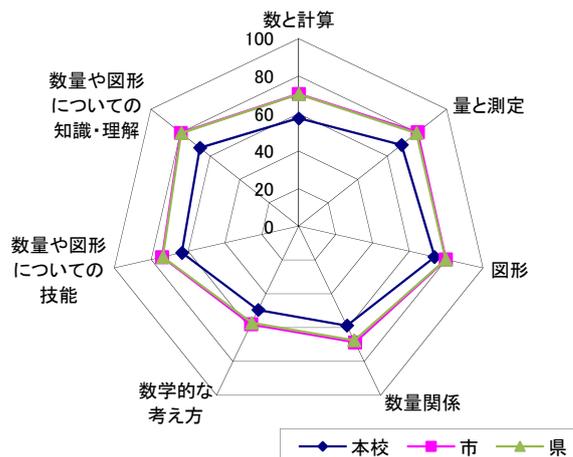
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話の中心に気を付けて聞き、意見を述べる問題では、市の平均に近かった。</p> <p>●領域全体では、県の平均を4.5%下回った。</p> <p>●司会の役割を理解し進行する問題では、正答率55.9%と県の平均を6.8%下回った。</p>	<p>・話し合いをする場を設け、自分の役割をもって話し合いができるようにしていきたい。</p> <p>・司会については、誰もが体験するような場面を設定する機会を増やす。</p>
書くこと	<p>○話し合いを基に招待状を付け足す文の記述する問題では、市の平均に近かった。</p> <p>●領域全体では、県の平均を8.1%下回った。</p> <p>●招待状に入れる二つの内容を一文にまとめて記述する問題は、県の平均を15.4%下回り、課題が見られた。</p>	<p>・どのように書くとよいか、書く量で諦めてしまうことなど、書くことに苦手意識がある児童が多い。招待状や作文などで使えるキーワードを提示して、書くための手立てを図りたい。</p> <p>・書く量や取り組みやすい内容を調整して、書く力を伸ばしたい。</p>
読むこと	<p>○説明文の指示語を示す内容を捉える問題では、市の平均に近かった。</p> <p>●領域全体では、県の平均を8%下回った。</p> <p>●叙述を基に、登場人物の性格などについて想像して読む問題では、県の平均を17.6%下回って課題が見られた。</p>	<p>・物語では、登場人物の性格や場面の様子を教科書に線を引かせたり、着目した文章の読み取りを深めたりし内容を理解させていきたい。</p> <p>・説明文については、段落のつながりや指示語の意味などをワークシートやノートに書き取らせたり、大事な言葉やキーワードに気付かせたりしたい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○漢字の書きの問題では、市の平均近い正答率の問題もあった。</p> <p>●言語についての知識・理解・技能では、県の平均正答率より8.1%低い。</p> <p>●既習の漢字の読み書きの定着が不十分である。</p> <p>●ローマ字問題は、県の平均より8.6%低い。</p> <p>●国語辞典の使い方の問題では、19.9%低い。</p>	<p>・漢字の読み書きについては、日常的に漢字を使う習慣をつけさせたり、漢字のへんやつくりを意識して書けるようにさせたりしていきたい。</p> <p>・新出漢字については、正しく書き、定着ができるようにドリルや練習を繰り返す。</p> <p>・ローマ字について定期的に練習し、定着を図りたい。</p> <p>・国語辞典の使い方は意味調べの機会や活用する回数を増やしていき、慣れさせていきたい。</p>

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.5	70.5	70.3
	量と測定	69.5	80.4	79.6
	図形	73.7	79.8	79.7
	数量関係	58.8	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	49.5	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	63.4	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	66.9	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

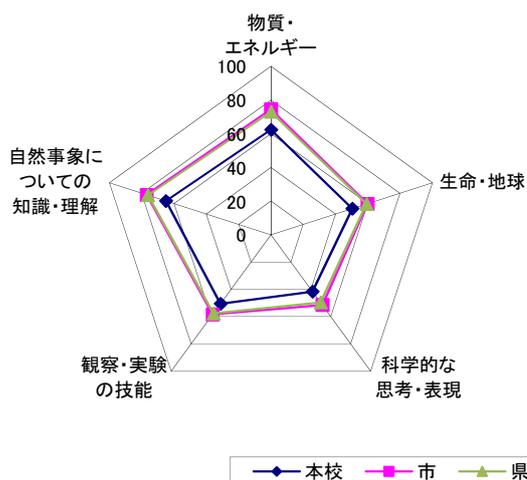
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○繰り下がりのある引き算や小数の大小関係の理解については、ほぼ市の平均値に近く、概ね理解できている。</p> <p>●整数-小数の計算・数直線の目盛りの読み取りと分数の関係・整数を単位分数のいくつかで表す理解が、市の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・基礎的な計算問題のドリル学習を徹底し、分数・小数の仕組みを理解させたり、分数・小数の計算に慣れさせたりする。</p> <p>・朝の学習の時間を活用し、随時復習問題に取り組みさせることで、さらに基礎的な計算力を習熟させていきたい。</p>
量と測定	<p>○kmからmの単位換算は、ほぼ市の平均に近い。</p> <p>●秒から分への単位換算・1kgの重さの感覚的な理解が市の平均を10ポイント以上下回っている。</p>	<p>・重さについては、日常生活の中で具体物に触れる機会を通し、重さに対する感覚を養っていく。</p>
図形	<p>○正三角形の作図は、ほぼ市の平均に到達しており、正三角形の性質はよく理解できている。</p> <p>●円の直径を表す線分を選ぶ問題は、市の平均を12.9ポイント下回っており、円の直径の意味の理解が不十分である。</p>	<p>・具体物を利用して円の性質や、半径と直径の関係を理解させる。また、実際に円を作図する機会を多く取り入れ、直径と半径の違いに気付かせる。</p>
数量関係	<p>○□を用いて数量関係を線分図に表したり、連続量の等分除の問題場面を表す線分図を完成したりする問題の正答率は、ほぼ市の平均に近く、線分図の理解はよくできている。</p> <p>●等分除の問題の除法の立式や式の意味の読み取りが市の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・文章問題を多く解くことで、わかっていること・求めることなど言葉の関係に慣れさせ、図で表したり、式にまとめたりする学習の機会を増やす。</p>

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.4	74.5	72.9
	生命・地球	50.4	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	41.6	51.6	49.7
	観察・実験の技能	50.5	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	65.0	77.0	76.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○風の強さによって物の動く様子が違うことが分かる問題と、輪ゴムをのばした長さや車の動いた距離の実験結果から必要なゴムののびを推測する問題では、市の平均に近かった。</p> <p>●領域全体では62.4%で、県の平均を10.5%下回った。</p> <p>●電気の通し方の問題では、県の平均を25%下回り、課題が見られた。</p> <p>●磁石の端ほど引きつける力が大きいという磁石の問題では、県の平均を17.3%下回った。</p> <p>●物は形が変わっても重さが変わらないことが分かる選択問題では、正答率72.9%と県平均を17%下回った。</p>	<p>・実験の際に、それぞれの実験を行う意味や内容を理解させ、自分なりの予想を立ててから実験に取り組ませる。また、実験結果とまとめでは、キーワードをもとに予想と結果を比較させる機会を設ける。</p> <p>・電気や磁石に関する実験では、電気の通し方や磁石の力の大きさなど実験を丁寧にしたり、ポイントを繰り返し確認したりする。</p> <p>・予想・実験・実験過程・結果などを丁寧にまとめて、基礎の定着を図りたい。</p>
生命・地球	<p>○虫眼鏡の正しい使い方と、日陰の位置の変化と植物の成長を関係付けて考察する問題では、市の平均に近かった。</p> <p>●領域全体では、県の平均より8.8%下回った。</p> <p>●特に、日なたと日陰の地面の様子の違いが分かる問題では、正答率52.5%と県平均69.9%より17.4%下回り、課題が見られた。</p> <p>●かげの向きは太陽の動きによって変わることが分かる問題では、正答率67.8%と県平均79.5%より11.7%下回った。</p>	<p>・正しい実験方法や観察の重点をおさえながら取り組みせ、気付いたことを自分の言葉やキーワードをもとにまとめていけるようにする。</p> <p>・実験や観察への興味を高め、基礎をおさえながら学習内容の定着を図りたい。</p>

宇都宮市立西が岡小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題

○「家で、学校の宿題をしている」という設問に肯定的に回答した児童の割合は91.5%とほぼ市の平均並みである。取り組みの意識は良好である。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という設問に肯定的に回答している児童の割合は平均に近い。その発表意欲が、さらに全体的に広がっていくよう支援していきたい。

○「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」という設問に対し、肯定的に回答している児童は84.市の平均に近く、高い割合を示している。自分の役割をきちんと果たそうとする意欲が高い。

●「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」という設問に肯定的に答えた児童の市の平均を16.5ポイント下回っている。具体的な計画の立て方や学習方法を学校で教え、自主学習の習慣の定着、学習力を高めていきたい。

●「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」という設問に対する肯定的な回答の割合が66.1%平均を下回っている。各教科の学習の中で、多様な形態のグループ活動を取り入れ、グループ学習の楽しさを味わいたい。

●「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」の設問に肯定的に回答し、は39.7%と市の平均を下回っていた。社会・総合的な学習の調べ学習を中心に、本やインターネットを活用し、必収集する機会を増やし、その有用性に気付かせていきたい。

が見られるもの
る。宿題に対

.; ほぼ市の

7%と、ほぼ

割合は低く、
を図り、家庭

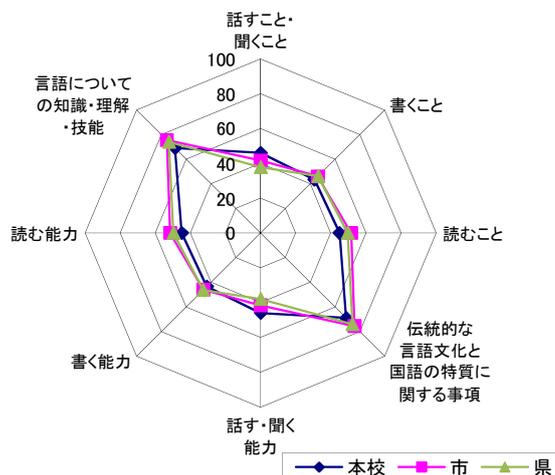
6と低く市の
わせていき

た児童の割合
要な情報を

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	46.0	41.6	37.9
	書くこと	43.4	46.1	46.3
	読むこと	45.0	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.0	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	46.0	41.6	37.9
	書く能力	43.4	46.1	46.3
	読む能力	45.0	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	69.0	75.6	74.0



★指導の工夫と改善

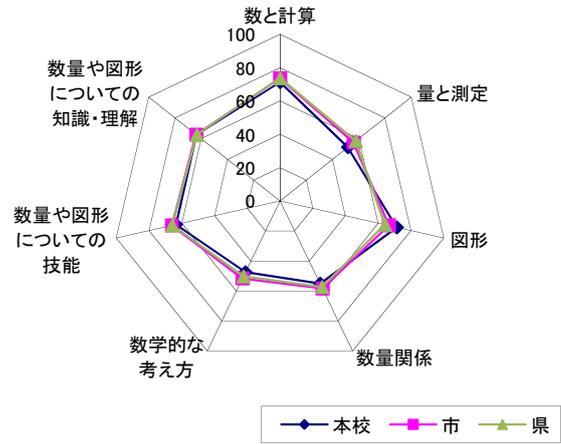
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は46.0%で、県平均を大きく上回っている。特に、話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する設問の正答率は69.8%であり、県平均より16.2%高い結果となっている。普段から話し合い活動に積極的に参加したり、司会進行を経験したりしている児童が多いことが背景にあると考えられる。	・普段の授業で、小グループで話し合う活動を設定し、話し合いを進行する経験を多くの児童にさせたい。 ・相手に正しく伝えるための話し方のポイントを意識させ、話し方・聞き方の工夫を学べるよう、意識して指導する。
書くこと	●領域の平均正答率は43.4%で、県平均46.3%より2.9%低い。 ●必要な情報を読み取り、学級新聞の見出しを選択する設問の正答率では57.1%で、県平均の70.1%より13%低い。テーマをつかみ、記事の適切な見出しを考え設定することに課題が見られる。	・「新聞記事を読み比べよう」の学習を生かして、記事等の文章に多く触れ、見出しを考えたり記事に付け足す文章を考えたりする活動を取り入れる。 ・物語を読んだ感想や文章を要約して書くときには、観点を明確にし、さらに行数や文字数を指定して、自分の考えをわかりやすくまとめて書くことを指導する。
読むこと	○目的に応じて文章を要約する設問の正答率は58.7%で県平均57.3%を上回っている。 ●領域の平均正答率は45.0%で、県平均49.7%より4.7%低い。 ●特に、中心となる語を捉えて読む設問の正答率は47.6%で、県平均の60.4%より12.8%低い。また、登場人物の気持ちを想像して読む設問の正答率は66.7%で県平均の78.6%より11.9%低い。普段の音読や読み取りの際に、中心となる語や登場人物の気持ちを意識して取り組むことが少ないことが背景にあると考えられる。	・説明文や物語文の読み取り方について指導し、段落のつながりや登場人物の気持ちに注目して内容を読み取る活動を多く取り入れたい。 ・登場人物の気持ちを表す表現に線を引いたり、想像しながら音読したりする活動を取り入れたい。 ・文章を要約する活動は引き続き取り組ませたい。 ・他の教育活動との関連を図り、朝の読書活動や読書週間を通して本に親しませるようにしたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○ことわざの設問の正答率は87.3%と高く、県平均の82.9%を4.4%上回った。 ●領域の平均正答率は69.0%で、県平均74.0%より5%低い。 ●特に、漢字の書き取りや組み立ての設問の正答率は県平均より17%低く、第4学年の配当漢字が正しく身に付いていないことに大きな課題が見られる。	・漢字の学習では、新出漢字だけではなく、前学年の漢字も読んだり書いたりできるような問題を用意し、活用する。新出漢字については授業で丁寧に指導し、繰り返し練習して知識が定着するように家庭とも連携する。 ・朝の学習や授業の導入時に漢字練習や小テストを行うことにより、既習の漢字や新出漢字の定着を図りたい。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.3	73.6	73.7
	量と測定	51.7	56.2	57.7
	図形	71.4	66.5	64.2
	数量関係	55.1	58.4	57.5
観点	数学的な考え方	47.5	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	63.6	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	63.7	64.0	63.5



★指導の工夫と改善

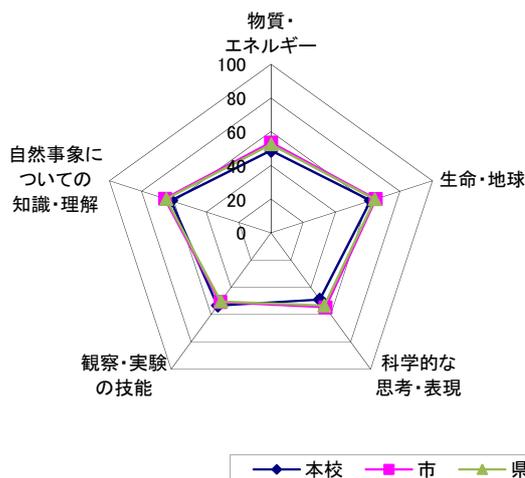
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●領域の平均正答率は71.3%で、県平均73.7%より2.4%低い。 ●特に、小数(小数第1位)÷2位数の計算を割り切れるまで行う設問の正答率は55.6%で県平均70.4%を大きく下回っている。また、数を0.01を単位とした相対的な数であらわす設問の正答率は58.7%で県平均72.5%より13.8%低い。第4学年で学習した計算問題の習熟が図れていないことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小数・分数・大きな数などの四則演算や、式と図の関係についての問題に繰り返し取り組ませる。家庭とも連携し、ドリルを活用して繰り返し練習させることで、基礎・基本の定着を図りたい。 ・朝の学習の時間に計算に取り組ませる活動を継続させることで、基礎的な力の定着を図るようにする。 ・問題を解いた後に必ず答えを確かめる習慣を身に付けさせることで、誤答を減らすようにする。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ○図で示された角度の大きさの範囲を選ぶ問題の正答率は77.8%で、県平均56.7%を21.1%上回った。角度についての概念はよく身に付いていると考えられる。 ●領域の平均正答率は51.7%で、県平均57.7%より6%低い。 ●特に、1㎡の正方形の面積をcm²の単位で表す設問の正答率は22.2%で、県平均45.9%より23.7%低い。単位の換算について大きな課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に定規や分度器を用いて測定する活動を多く取り入れ、児童が実感し、より理解が深まるように指導する。 ・単位の換算については実感をもって換算ができるようにICT機器や実物を活用し、定着を図る。 ・面積を求める問題では、公式を確実に身に付け、応用的な問題についても公式を活用して粘り強く取り組ませる。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ○領域の平均正答率は71.4%で、県平均64.2%を7.2%上回った。 ○特に、与えられた2つの辺の続きを書いてひし形を完成する問題の正答率は84.1%で県平均68.1%を16%も上回る結果となった。図形についての基礎的な知識が定着していると考えられる。 ○図形についての設問すべて県平均正答率を上回った。子どもたちの興味が高い分野だと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形についての関心を高め、作図に慣れ親しむことができるように引き続き指導していく。 ・三角定規・分度器・コンパス等の作図用具を正しく丁寧に扱うよう、家庭とも連携し呼びかけていく。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ●領域の平均正答率は55.1%で、県平均57.5%より2.4%低かった。 ●特に、四則混合で()のある式について、計算の順序を選ぶ設問の正答率は66.7%で、県平均78.3%より11.6%低い。()を使った式の順序についての知識が課題である。 ●活用問題である折れ線グラフの読み取りの正答率は14.3%と著しく低く、県平均29.1%を14.8%下回った。問題文が長く複雑になると最後まで粘り強く考えることが難しくなる傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則混合計算については既習内容をもう一度復習し、繰り返し練習させることで基礎基本の定着を図るようにさせたい。 ・活用問題については、単元の終末に理解度に応じてヒントを与えるなど指導の仕方を工夫し、どの児童にも自分から取り組んでみようとする気持ちを高められるようにしたい。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	48.8	53.7	52.5
	生命・地球	61.8	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	48.9	54.7	53.4
	観察・実験の技能	53.4	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	61.9	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○水を沸騰すると水蒸気という気体になることを答える選択式の設問では正答率71.4%で、県平均62.6%を約9%上回っている。空気と温度の関係の理解に一定の成果が見られる。</p> <p>●領域の平均正答率は48.8%で、県平均52.5%より3.7%低い。</p> <p>●特に、水から氷になるとき、体積が大きくなることを答える設問の正答率は42.9%で、県平均57.8%より約15%低い。また、水が氷になるときの温度変化を答える設問の正答率は46.0%で、県平均57.9%より約12%低い。水の性質の理解について大きな課題が見られる。</p>	<p>・実験の事象やわかったことを、身近な生活で見られる事象と結び付け、まとめる活動を通して知識の定着を図る。</p> <p>・実験後にわかったことを自分の言葉でまとめる活動を取り入れることで、より確かな知識として定着できるようにする。</p>
生命・地球	<p>○星座早見表の使い方の設問は県平均より約10%上回った。星座早見表や星座の見方についての学習に一定の成果が見られる。</p> <p>●領域の平均正答率は61.8%で、県平均64.3%で2.5%低い。</p> <p>●特に、人の背中や手が丸く曲げられる理由を説明する設問の正答率は27.0%で県平均43.2%より約16%低い。記述式の問題に解答する力に課題がある。</p> <p>また、温度計を使った気温の正しい計り方を選択する設問の正答率は47.6%で、県平均65.2%より約17%低い。</p>	<p>・温度計の正しい使い方については、復習として実際に温度計を使って活動する学習を取り入れ、今一度知識の確実な定着を図る。</p> <p>・人体の仕組みについては、授業の終末で自分の言葉で説明したりまとめたりする学習活動を取り入れ、知識の定着を図る。また、記述式の設問に苦手意識を持たせないように普段から小テストなどに組みこませる。</p>

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」と回答した児童は95.2%で、県平均より12%から友達と話し合い、考えをつないだりまとめたりするスタイルでの授業を行っており、児童にも定着してきていること

○「家の人と将来のことについて話すことがある。」と回答した児童は73.0%で県平均より8.1%高い。家の人とのことについて話している児童が多いことがわかる。

○「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)が示されている。」と回答した児童は90.5%で、県平均を回っている。学校全体で授業の進め方を共有し、必ずめあて・ねらいを示すようになっていることを児童も理解している。

●「宿題は、やりたくなる内容だ。」と回答した児童は54.0%で、県平均より10.8%低い。授業の内容を復習してやる内容の宿題のほか、児童の興味や関心を高める内容の宿題を取り入れるなどして前向きに取り組めるよう支えたい。

●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」と回答した児童は52.4%で、県平均より大きく21.8%下回っている。自ら学ぶ意欲に大きな課題が見られる。自主学習のやり方を紹介したり、自分から学ぼうとしている児童を称賛し、自ら学ぼうとする意欲を高める指導を継続していきたい。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」と回答した児童は20.6%で、県平均より2%回っている。普段から本を読んだり、インターネットを利用したりする児童が少なく、情報収集の手立てが身に付いていないと考えられる。今後はいろいろな教科において積極的に図書室やパソコン室を活用する学習活動を取り入れる。

●「家で、テストで間違えた問題について勉強している。」と回答した児童は41.3%で、県平均を22.4%下回っている。テストを返された後に復習をするという習慣が身に付いていないことが原因と考えられる。今後は必ず間違い家でもう一度復習したりするよう指導し、習慣化するようにしたい。

が見られるもの
%高い。普段
とがわかる。

前向きに将来

5. 2%上
いることがわ

知識を定着
爰していきた

っている。児
贖したりして、

24. 8%も下
こいない児童
していきたい。

いる。前学年
を直したり、